

○鎌倉市屋外広告物条例に関する許可行為に係る審査基準等

この基準は、鎌倉市屋外広告物条例（令和3年12月条例第14号。以下「条例」という。）に規定する許可行為の審査に関し、必要な事項及び標準処理期間を定めるものとする。

1 標準処理期間

番号	許認可等事項	根拠法令	根拠条項	標準処理期間
1	屋外広告物の表示又は屋外広告物掲出物件の設置の許可	鎌倉市屋外広告物条例	第4条第1項	10日
2	屋外広告物の表示又は屋外広告物掲出物件の設置の継続の許可	鎌倉市屋外広告物条例	第12条第3項	10日
3	屋外広告物の表示又は屋外広告物掲出物件の設置の許可の内容変更等の許可	鎌倉市屋外広告物条例	第13条第1項	7日

(注)

ただし、番号1の許可のうち、第11条（許可の特例）に規定する許可に当たっては、標準処理期間を設けないものとする。

2 許可申請手数料の算定について

許可申請手数料の算定に当たっては、神奈川県土木部長通知「神奈川県屋外広告物条例施行規則第8条（現行県条例第12条）（申請手数料）の取扱いについて（昭和47年6月28日計第211号土木部長通知）」に基づき、行うものとする。

（参考）

神奈川県屋外広告物条例施行規則第8条（現行県条例第12条）（申請手数料）の取扱いについて（昭和47年6月28日計第211号土木部長通知）

このことについて、次のとおり取扱い方法を定めたので、今後の取扱いについて遺漏のないよう留意されたい。なお、下記のうち2の取扱いについては別紙例を参考とされたい。

〔取扱い方法〕

- 1 条例施行規則別表第2に競定する「広告塔、広告板、アーケードに設置するもの及び案内板」については、1基を単位として手数料が決められているものであるから、1件の申請書により複数の物件について申請があった場合は、個々の物件について手数料を算定し、その合計額を当該申請の手数料として収入すること。

自己の住宅、店舗等に自己の所在、名称、営業内容等を表示する広告物（いわゆる自家用広告物）として1件の申請書により複数の物件について申請があった場合においても申請にかかる広告物の全表示面積の合計により手数料を算定することなく、あくまでも上記方法により算定すること。

- 2 1基の広告塔、広告板に照明装置のある部分と照明装置のない部分が存する場合には、照明装置のある部分とない部分についてそれぞれの手数を算定し、その合計を当該広告物についての手数料とすること。

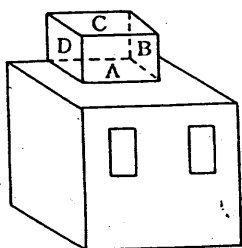
ただし、照明のない部分を照明装置があるものとして算定した場合の方が、上記方法によった場合より手数料が低額となる場合においては、上記方法によることを要しない。

なお、照明装置のある部分とない部分の区別は広告表示面を単位として行なうものとし、1の広告表示面で照明装置のある部分とない部分が区別できる場合であっても、照明装置のあるものとして取扱うこと。

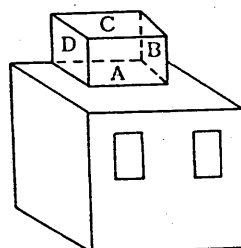
なお、当該通知の適用例は、次のとおりである。

〔適用例〕

例1



例2



例1は、4面広告塔でありABC面には照明装置があり、D面には照明装置がない場合である。この場合にはABC面の表示面積の合計を行ない、手数料を算出したものにD面の手数を加えたものを当該広告物の申請手数料とする。

例2も上記例1と同例であるが、この場合においてABC面がそれぞれ4㎡、D面が7㎡であるとした場合は、計算上の問題から、照明装置のある部分とない部分に分けて手数料を算出すると10,200円（照明装置のあるABC面分12㎡は7,200円、照明装置のないD面分7㎡は3,000円）になるが、これをすべての面に照明装置ありとして算出すると9,600円（照明装置のある分19㎡とみなす場合）になる。この場合は、金額の少ない後者を申請手数料とする。

（注）例2における広告塔の単位手数料

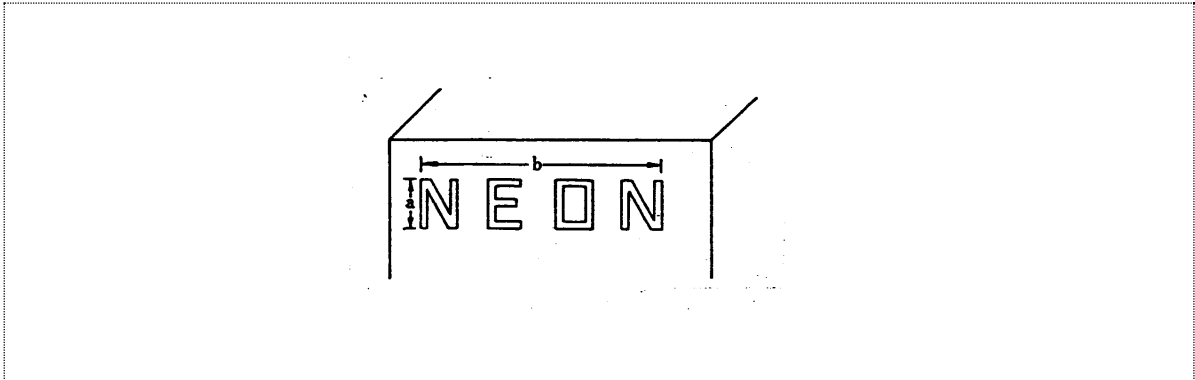
照明装置のない場合	5㎡につき1,500円
照明装置のある場合	5㎡につき2,400円

3 広告物の面積算定の方法について

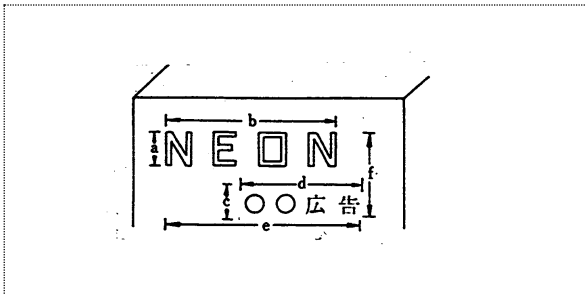
許可申請手数料の算定に係る広告物の面積算定については、昭和47年4月1日から次の方法により行っているところである。

- (1) 屋根、塀、壁等の既存の施設の面上に直接表示し、又は物件を設置して表示するもの。
算定方法は、原則として当該広告物の表示面積（一連の文字間の空間を含む。）とする。

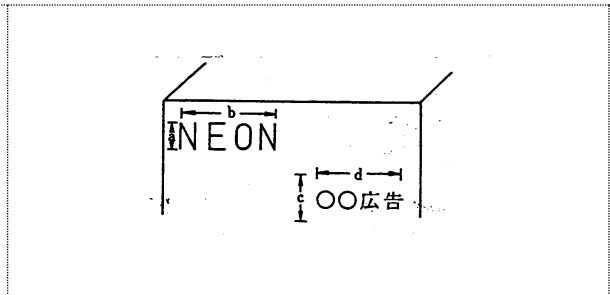
例1 $S = ab$



例2の(1) $S = ab + cd$

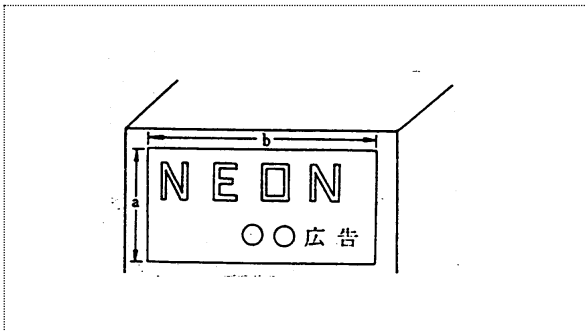


例2の(2) $S = ab + cd$

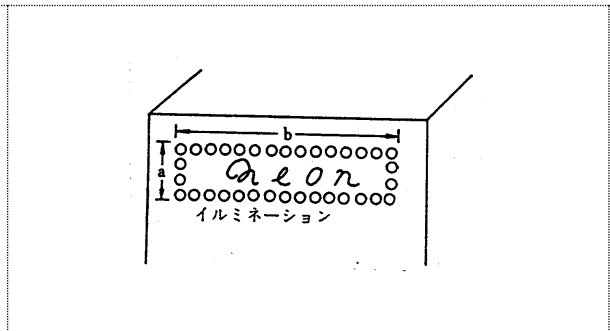


注：例2の(2)の場合は、従来においては一体の広告物として $S = ef$ としていたが例2の(2)の場合にも同一方法を適用するのは問題があり、運用の統一を図るため方法を改めた経緯がある。(昭和47年4月1日)

例3 $S = ab$



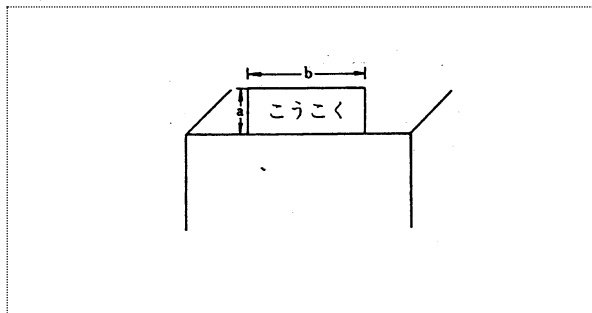
例4 $S = ab$



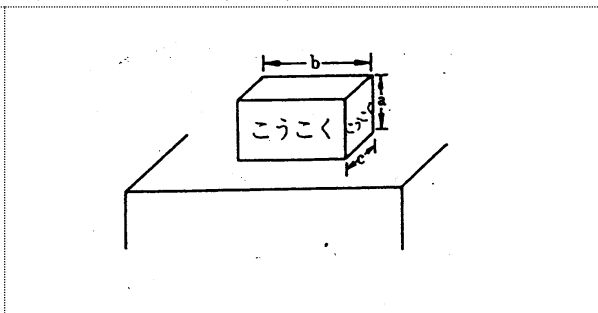
注：本例のように壁面の一部に商店名等を表示するため壁面の色彩を塗り替えたりした場合は、当該塗り替え部分の面積とする。

- (2) 物件を設置して表示するもの
 算定方法は、原則として当該物件の面積を広告物の表示面積とする。
 ただし、表示のない面は除く。

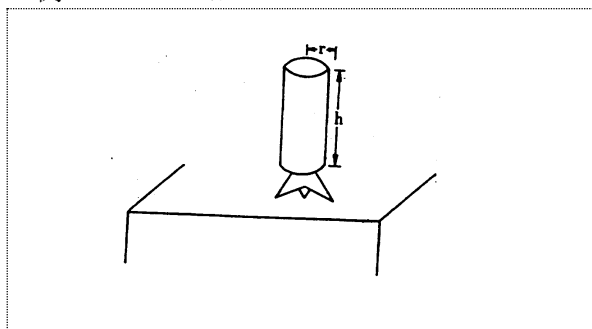
例1 $S = ab$



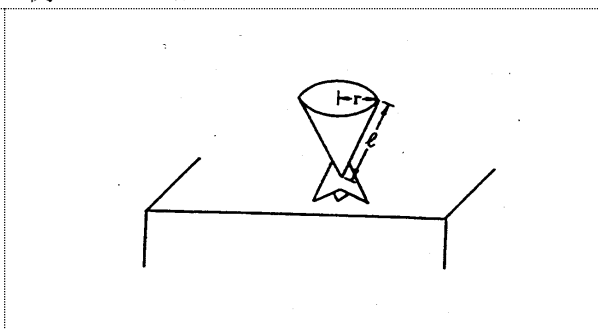
例2 $S = 2a(b+c)$



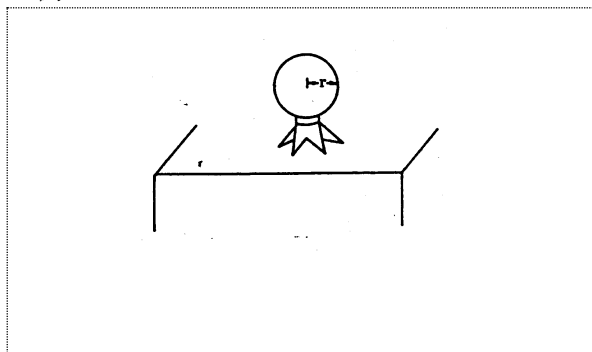
例3 $S = 2\pi rh$



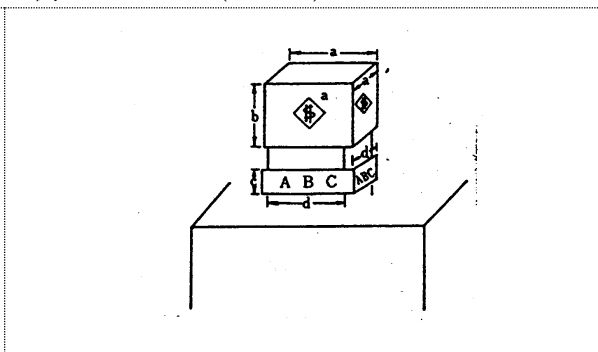
例4 $S = \pi rl$



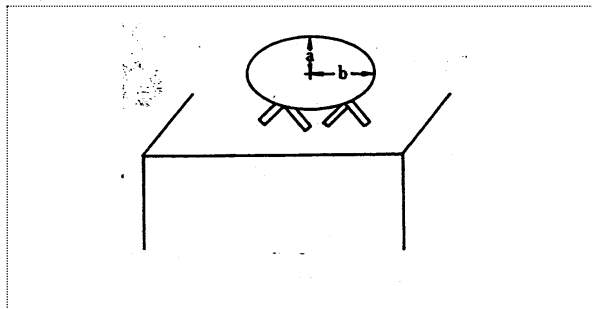
例5 $S = 4\pi r^2$



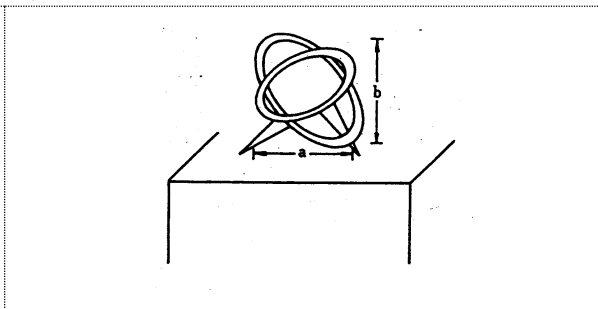
例6 $S = 4(ab+cd)$



例7 $S = ab\pi$



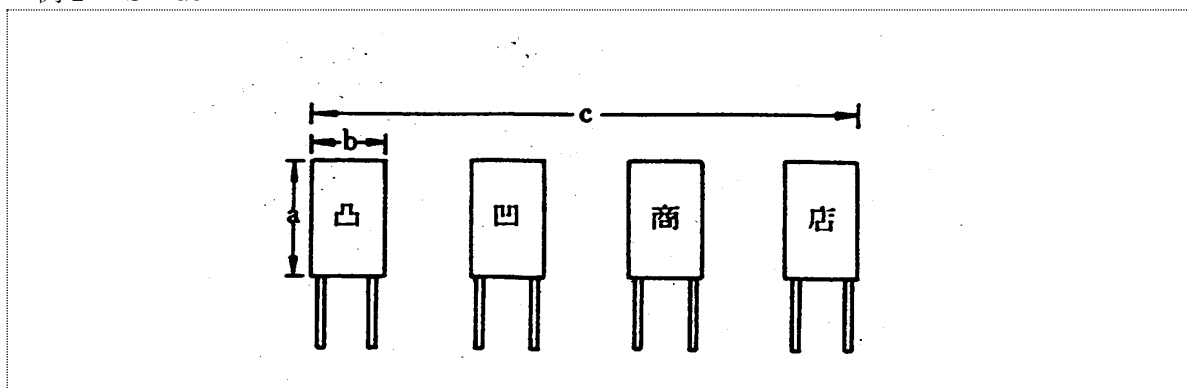
例8 $S = ab$



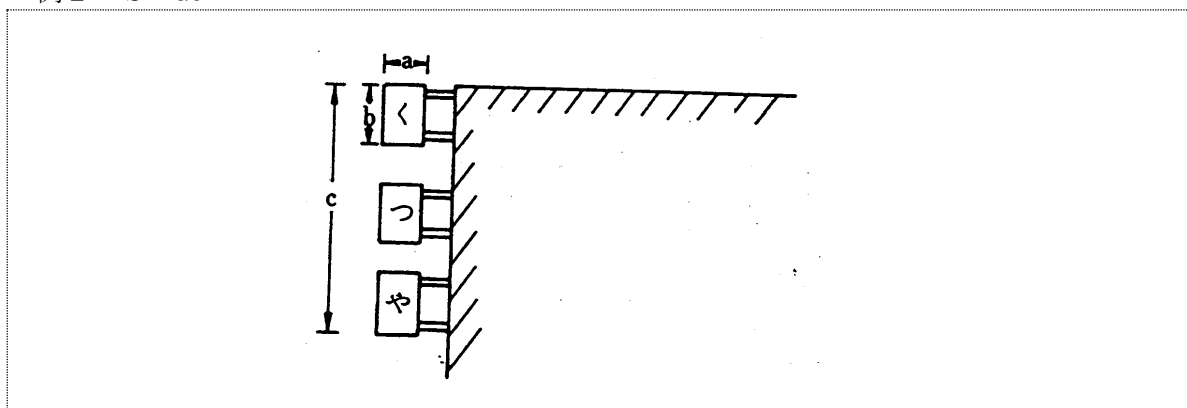
変形の広告物の面積算定は、最長距離同士を乗じたものとする。

- (3) 各独立した物件に表示された広告物であって、空間をおき、それぞれの独立した物件の表示内容の総合で一定の概念、イメージを伝達するもの
算定方法は、原則として各物件間の空間部分も表示面として計算する。

例1 $S = ac$

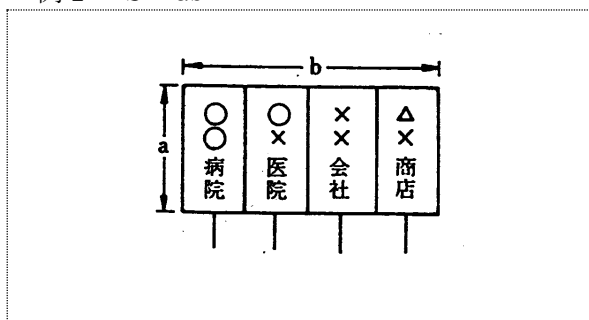


例2 $S = ac$

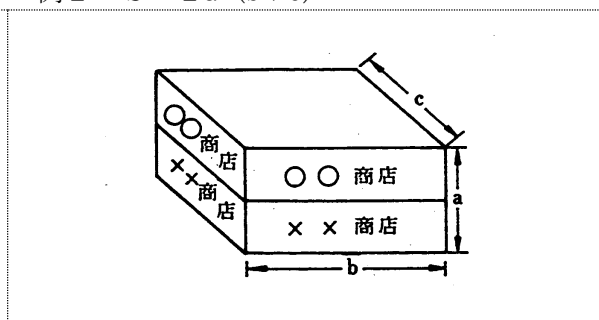


- (4) それぞれ一定の概念又はイメージを伝達する表示内容を有するものが1の広告物に複数表示されるもの
算定方法は、一つの広告板、広告塔に独立した複数の異なった概念等が表示されるものについては、原則として当該物件の面積を広告表示面積とする。ただし、それぞれの表示面が独立している場合は、それぞれの表示面の合計面積とする。

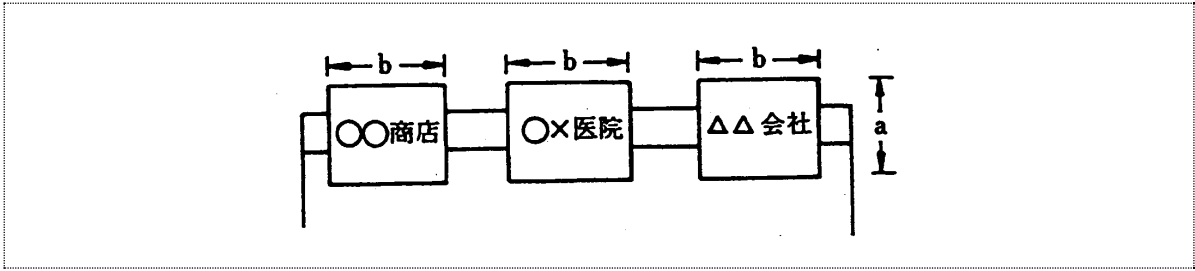
例1 $S = ab$



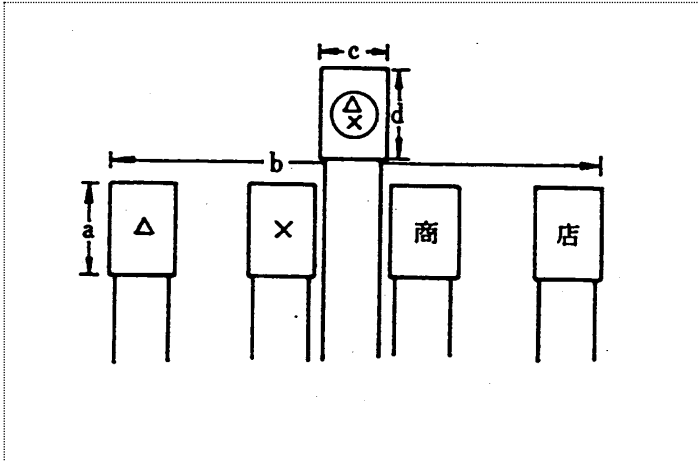
例2 $S = 2a(b+c)$



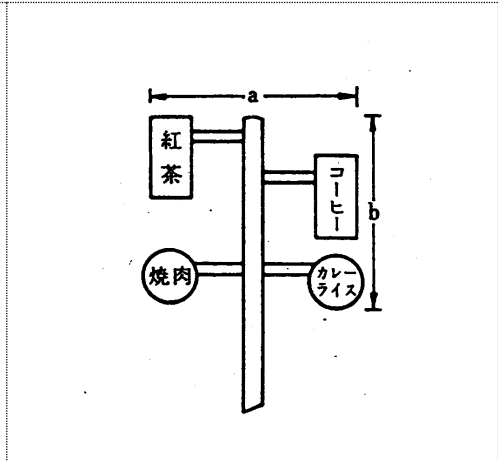
例3 $S = 3ab$



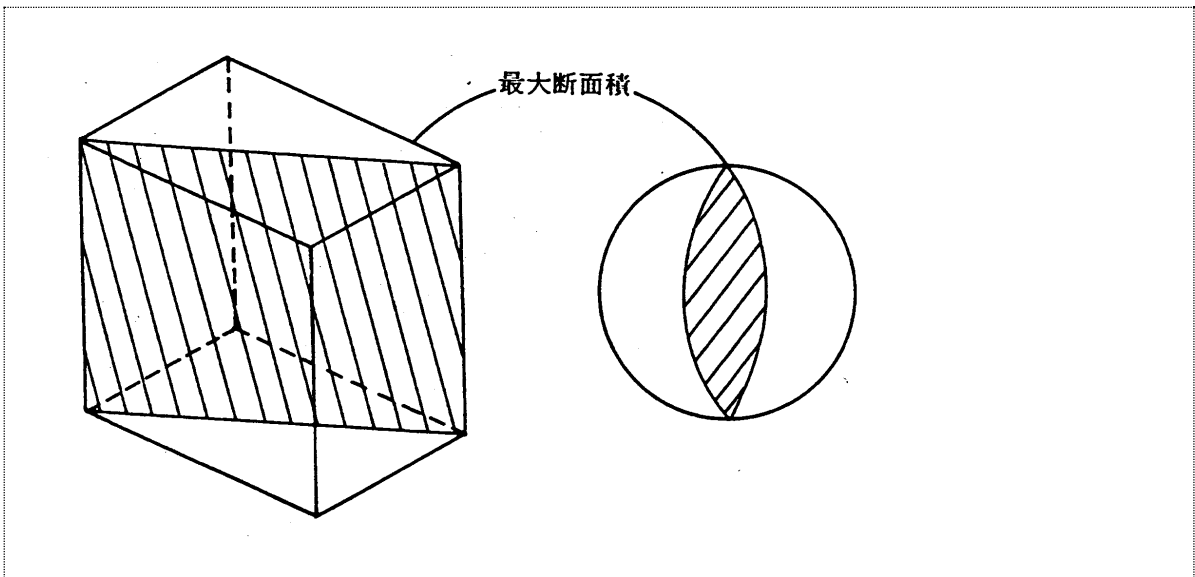
例4 $S = ab + cd$



例5 $S = ab$



(5) 最大断面積の算出例



最大断面積とは、屋外広告物に対して側面から投光した場合の最大投影面積をいうものである。